

## 令和元年 1 1 月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	議席 番号	氏名	要 旨	答弁者
5	12	深澤 竜介 議員		1 / 2
発言項目		要 旨		答弁者
1	「富士宮市の水」その3（田植えのときの水不足について）	<p>富士宮市は富士山の恵みの賜物である豊富な湧水とともに発展してきた。この貴重な財産である水を生かすことが富士宮市にとって重要と考える。この豊富な水は時に異常湧水となり悩まされることがあるが、意外なことに、ここ数年は地域によっては、田植えのときに水不足となっている。今年、田植えができなくなった田んぼもある。以下質問する。</p> <p>(1) ここ数年の田植えのときの水不足の現状。</p> <p>① ここ数年、田植えのときに水不足が発生しているが、どの程度の水不足の状況か。</p> <p>② 水不足の状況と、湧水測定地点の水位、降水量（数カ月前）との因果関係は何かあるか。</p> <p>③ こうした田んぼの水利権との関係は、どういう扱いになっているのか。</p> <p>④ 各所にある水門の管理は、誰が、どういう判断で行っているのか。</p> <p>⑤ 田植えのときの水量管理についての、連絡体制はどうなっているのか。</p> <p>(2) 今後への提案。</p> <p>① ソフト面において、水不足が懸念されるときは、早い時期に水不足予報を出し、連絡体制をつくることを提案するがいかがか。</p> <p>② ハード面において、本年応急処置はしていただいたが、抜本的な解決のため、考えていることはあるのか。</p> <p>③ 湧水量の増減について、研究機関と協力し、目に見える形で、情報発信していくことを提案するがいかがか。</p>		市長 副市長 関係部長
2	持続可能な自治体になるため、AIの市役所業務への導入の提案	<p>自治体戦略2040構想研究会報告書には、2040年には、現在の半数の職員でも運営できる自治体づくりが急務であり、そのために破壊的技術が必要となる。と書かれている。まさにその通りであり、AIの導入を提案する。</p> <p>(1) 富士宮市の現状のAI導入事例は何かあるのか。</p> <p>(2) 富士宮市で導入検討を行っているものは、何かあるのか。</p> <p>(3) 富士市との間で、共同導入に向けての話し合いはあるか。</p> <p>(4) AI導入にあたって。</p> <p>① 例えば、議事録作成、保育園割振り、伝票入力、市民からの問い合わせなどの業務にAIを導入している自治体が増えてきているが、富士宮市では導入する考えはあるのか。</p> <p>② AI導入にあたっての人材育成に対する考えは何かあるのか。</p>		市長 副市長 関係部長

発言 順序	5	議席 番号	12	氏名	深澤竜介 議員	2/2
発言項目			要 旨			答弁者
3	白糸の滝の安全対策 について		<p>観光客の危険な場所（進入禁止エリア）や冬の富士山での撮影での事故が相次ぐ中、白糸の滝での安全対策について質問する。</p> <p>(1) 白糸の滝の管理区分は国・県・市でどうなっているのか。</p> <p>(2) 昨夏に、小石の落下があり、その後、柵には立入禁止の標識が掲げられたが、滝つぼへ侵入する観光客は減らない現状をどう考えているのか。</p> <p>(3) より明確な進入禁止の看板設置を提案するがいかがか。</p> <p>(4) 観光客から要望の多い、ベンチやトイレの設置は可能か。</p>			市長 副市長 関係部長